40年前？「聖夜の計画」綿密に記す

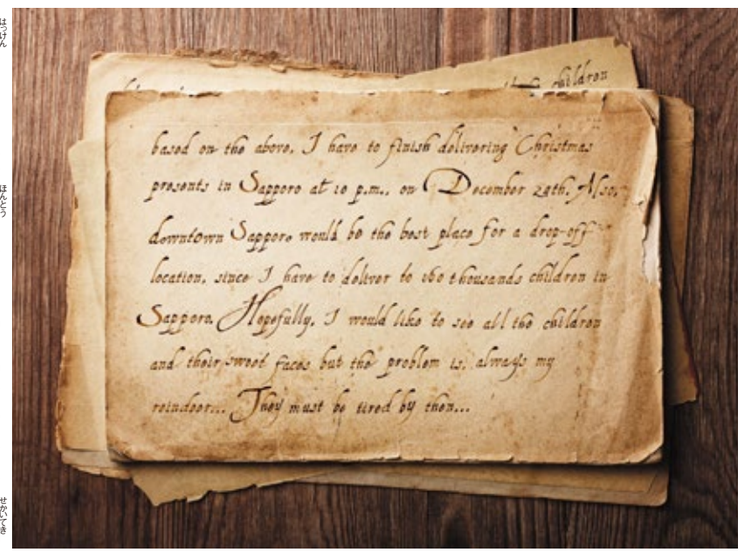
北海道博物館

サンタのメモ入手か

白銀に染まる道立野幌森林公園（札幌市、江別市など）で、12月上旬、朝の散歩を日課にしている読者から、トナカイに似た動物を目撃したとの情報がサンタ捜索チームに寄せられた。現場に急行した同チームは、トナカイを見つけることはできなかったものの、古いメモを発見、回収した。

メモがサンタと関連があるとみた捜索チームは、古文書に詳しく、野幌森林公園周辺の事情にも明るい北海道博物館（札幌市厚別区）に協力を依頼。分析の結果、サンタのものである可能性が高いことが判明した。そこに記載されていたのは、プレゼント配達に苦労するサンタの温かい心情だった。

どうしん夢プロジェクト



発見されたメモ。本当にサンタのものであれば、世界的発見となる。＝9日、サンタ捜索チーム撮影

サンタ捜索チームは、北海道博物館協力の下、メモの解読に成功。内容の一部を公開した。

「札幌は12月24日の夜10時に配る必要がある。約16万人の子どもたちに瞬時に配るためには、市内中心部に拠点を置きたい。子どもたち一人一人の寝顔をゆっくりと見たいが、トナカイの体力を考えると、なかなかそうもいかない」。

捜査チームは「16万人」という数字に着目。札幌市の過去の人口統計情報から、40年前の児童数であることを割り出した。メモの中には、子どもたちからリクエストされたとおぼしきおもちゃについても記述があり、それらも40年前に流行したものと合致。さらに、トナカイとそりの〝待機場所〟についても記述があったという。

北海道に関する歴史資料などを展示する北海道博物館

捜索チームは「これはトナカイが落とした、40年前のサンタのメモである可能性が高い」と発表。この「聖夜の計画」から、子どもの寝顔をゆっくり見たいものの、トナカイのことを気遣うサンタの「人間性」も垣間見える。なお、今後の捜索に役立つ歴史的資料であるため、捜索本部が厳重に保管することを決めた。

23～25日、北海道博物館へ トナカイに会いに行こう！

本物のトナカイを見たことがあるだろうか。誰もがその存在を知っているものの、なかなか本物にお目にかかれない動物かもしれない。サンタのパートナーであるトナカイに会えるチャンスがクリスマスにやってくる。

北海道博物館では、「クリスマス特別企画」と題し、23日から25日までの3日間、トナカイの実物剥製を展示する。同館の学芸員池田貴夫（いけだ・たかお）さん（46）によると、この剥製は普段公開されていない同博物館秘蔵の一頭であり、体長は1・7メートル。館内では、トナカイとの記念撮影が可能。SNSなどで自慢できる一枚も撮れるだろう。クリスマスは、ぜひ北海道博物館へ足を運んでみてはいかがだろうか。（観覧料一般600円、高・大生300円、中学生以下・65歳以上無料）

明日はクリスマスイブ。クリスマスケーキや料理とともにおいしいワインも合わせたい大人も多いだろう。そこで今回は、道内で広く活躍するソムリエ、池田卓矢（いけだ・たくや）さん（47）に、クリスマスに合うワインについて話を聞いた。

「クリスマスは、華やかな雰囲気に合わせて、普段お酒を飲まない人も飲みたくなる傾向がある。北海道はワインがワンコインで買えるコンビニも多く、気軽に楽しめる文化がある」という池田さん。クリスマスにお薦めのワインとして、スパークリングワイン「カヴァ」を挙げる。「華やかな席でよく飲まれるシャンパンよりも手軽に楽しめるのが魅力。シャンパンと同様、伝統的な製法で作られ、持続性のあるきめ細やかな泡が楽しめる」。

また、「ケーキと合わせるなら甘口、チキンと合わせるなら、中～やや甘口や辛口がお薦め。辛いと感じたら、オレンジジュースなどで割るのも一案。好みに合わせて選んでもらえたら」とアドバイスする。

ソムリエ池田卓矢氏に聞く

「クリスマスに飲みたいワイン」

「大切な人とワインを楽しんで」と話すソムリエ池田さん

クリスマスに甘い夢を

セコマグループ 施設へクリスマスケーキ贈呈

どうしん夢プロジェクト 広告企画

サンタ姿のセコマ社員から、クリスマスケーキを受け取る子どもたち

クリスマスを前に、20日、株式会社セコマ（本社・札幌市）が、北海道内の児童福祉施設にクリスマスケーキをプレゼントする催しを行った。

この取り組みは「北海道のたくさんの子どもたちにクリスマスを楽しんでほしい」という思いから、サンタに扮（ふん）した同社社員が子どもたちにクリスマスケーキをプレゼントするもので、今年で15年目の開催となる。これまで約5万人の子どもたちに、約6500個のケーキをプレゼントしている。

今年は、101の施設を対象にケーキ約8950個がプレゼントされた。なお、ケーキは、セイコーマートのグループ会社が製造しているオリジナルの生クリームケーキで直径約15センチの5号。ホイップクリームとピーチをサンドしている。

札幌市厚別区の北海道札幌養護学校では、15歳から18歳まで15人の子どもたちが参加。サンタは「メリークリスマス」と言いながら登場すると、代表の生徒にケーキを渡した。受け取った子どもたちは「ありがとう」と言い、そのお礼として、就業学習で製作したコースターなどをサンタへ渡した。生徒たちは心温まるひとときとともに、ひと足早くクリスマスの味を楽しんだ。

DOSHIN SANTA SEARCH
サンタ捜索WEB
読みがな入り紙面が見られる！
http://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/

SANTA JOURNAL

大自然の贈り物「クリスマス島」

「クリスマス島」という島をご存じだろうか。インド洋に浮かぶオーストラリア連邦領の島で、1615年のクリスマスに発見されたことからその名が付いた。島の約60％が国立公園に指定されており、特異な生態系の中でも体長10センチ以上の赤いカニ「クリスマスクラブ（アカオカガニ）」が有名だ。繁殖期である10月下旬に、産卵のため海を目指して島内を大移動することで知られ、その数はおよそ数千から一億匹といわれている。クリスマス島は、ダイビングスポットとしても人気で、美しい海とサンゴ礁、さらに運が良ければジンベイザメと出会うこともできる。

生まれ持った大自然を守り、大切に育むからこそ、動物にも愛される島、クリスマス島。北海道に住む私たちも、豊かな自然と生態系を大切にしていきたいものである。

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は24日朝刊予定。

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。